



名古屋第二赤十字病院
NAGOYA DAINI RED CROSS HOSPITAL

●発行責任者/院長 石川 清
●編集/名古屋第二赤十字病院企画課 名古屋市昭和区妙見町2番地の9
●編集協力/HIPコーポレーション

平成22年1月1日発行 第12巻第2号(通巻46号)

平成22年に向けて



院長 石川 清

新型コロナウイルス 対応には全病院あげて

昨年10月頃から大流行している新型コロナウイルスの対応では、当院は早期よりインフルエンザ外来を設置するなどして全病院あげて取り組み、外来患者数、入院患者数とも県内の病院の中では最も多くの患者さんを受け入れてきました。今後も当院の救急医療、高度医療の機能を低下させることなく、当院の担うべき役割を果たしていきたいと思っています。

歴史と伝統を守りつつ、 地域から期待される 病院に

医療の崩壊が取り上げられている情勢の中で、当院は揺るぐこと

のない確固たる方向性を持って進んでいきたいと思っています。当院がこれから進むべき方向は、歴史と伝統のある救急医療、高度医療、医療連携、災害救護と国際救援、研修医・看護師教育に加えて、がん診療、周産期医療など、当院が地域から期待される医療、当院がこの地域で担わなければならない医療を推進していくことであると思っています。

へき地に医師派遣を 行うことにより 社会に貢献

一昨年、当院が赤十字の医師派遣拠点病院に指定されたのを契機に、昨年は北海道の浦河赤十字病院、静岡の下伊那赤十字病院などに医師を派遣してきました。本年は赤十字病院以外にも、県の要請を受けて県内の病院に医師を派遣

する計画をしています。今後も積極的にへき地に医師を派遣し、医師派遣拠点病院としての使命を果たし、社会に貢献したいと思っています。

全赤十字施設のリーダー として国際救援を推進

昨年11月、近衛忠輝日赤社長が国際赤十字・赤新月社連盟の会長に選ばれたことから、今後は、国際救援は日赤の事業の中でもより重要な領域になると思います。21年度はアフガニスタン、フィリピン、インドネシア、ウガンダ、タンザニア等に看護師を派遣し、積極的に国際救援活動を行っています。今後とも国際医療救援拠点病院として、また、全赤十字施設のリーダーとして国際救援を推進していきたいと思っています。国際救援は当院の歴史と伝統であり、全病院あげて国際救援を通して社会に貢献したいと思っています。

色々な催しを開催して 社会に貢献

へき地医療や国際救援ばかりでなく、院内でもいろいろな催しを開催して社会に貢献したいと思っています。市民公開講座、健康教室、介護ボランティア講座、災害医療を学ぶ集いなどのほか、毎年恒例となっているハートフルコンサート、夏祭り、クリスマスコンサートなどの催しも開催します。また、昨年に引き続き、地域住民の皆さんに医療の実態をよりいっそう理解していただくため、院長・看

護部長とめぐる病院見学ツアーを本年も開催したいと思っています。

電子カルテ導入 および外来部門の改修 にご協力を

22年の5月には当院でもいよいよ電子カルテが導入されます。電子カルテの利点は、患者さんの情報を一元化できるばかりでなく、医療安全の面でも大きなメリットがあります。

また、外来部門のある第1病棟は、建築後既に20年が経過し、配管などの全面的な改修が必要となっています。また、電子カルテ導入により機能的にも色々な支障が生じています。22年度はこの外来部門の改修・再編成を計画し、今後10年、20年以上にわたって機能を維持できる斬新な外来部門に改修したいと思っています。電子カルテ導入および外来部門

の改修に当たっては、従来の外来の診療機能を低下させないように行いたいと思いますが、皆さまには長期間にわたってご不便をおかけしますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

いろいろな人から 選ばれる病院に

当院は良い医療を提供することによって、地域の人たちに信頼される病院、社会に貢献する病院となり、患者さんばかりでなく医学生、看護学生、ボランティアなどいろいろな人から「選ばれる病院」となるよう、職員一丸となって頑張っていきたいと思っています。本年度も3つのホスピタルミッションを一つ一つ実践していくことを目標とし、選ばれる病院づくりに取り組んでいくという抱負をお伝えして平成22年の新年のあいさつしたいと思います。



名古屋第二赤十字病院
ホスピタルミッション

1. 医療の質と安全とサービスでトップレベルの病院
2. 人材が集まり、人材が育ち、人材を育てる病院
3. 社会に貢献するモラルの高い病院

東海地震に備えた 災害訓練を実施しました。



また今回は、名古屋第一赤十字病院からヘリコプターによって緊急搬送された患者さんの受け入れ、マスクミに対する会見など、本番での多彩なケースを想定した訓練が行われ、参加した全員が真剣な表情で一つの作業に取り組みました。



訓練の講評として、石川院長は「例年に増して素晴らしい訓練になりました。参加したすべての人に感謝します。」

万一、東海地震が発生した場合、地域中核災害医療センターとして万全の体制で災害医療を行うことができるよう、当院では定期的な災害訓練を実施しています。その一環として、平成21年10月28日に災害訓練を実施しました。

**地震注意情報と同時に
対策本部が設置され
訓練が始まりました。**

当日は午前9時頃に東海地震注意情報が発表されたという想定で訓練がスタートしました。すぐさま災害対策本部を設置し、病院としての方針の決定や、県・関係機関との連携、傷病者の搬送、救護班の派遣、ボランティアの確保などの準備が行われました。

午後1時15分に東海地震が発生すると、正面玄関前にトリアージ（最適な治療を行うため、怪我の重傷度や緊急度によって被災者を分けること）のためのテントが設置され、看護学校の学生さんや地元の防災ボランティアの方々が扮



する被災者が次々と搬送されてきました。本番さながらの緊張感の中、医師や看護師によるトリアージによって被災者は「最優先治療群エリア」「非緊急治療群エリア」「軽処置群エリア」に搬送され、それぞれのエリアでも実践的な処置訓練が行われました。

**ヘリコプターによる
搬送など、多様な
訓練も行われました。**

また今回は、名古屋第一赤十字病院からヘリコプターによって緊急搬送された患者さんの受け入れ、マスクミに対する会見など、本番での多彩なケースを想定した訓練が行われ、参加した全員が真剣な表情で一つの作業に取り組みました。

「最優先治療群エリア」「非緊急治療群エリア」「軽処置群エリア」に搬送され、それぞれのエリアでも実践的な処置訓練が行われました。

また当日は「地域住民の皆様と災害医療を一緒に考える集い」も併せて開催され、名古屋市昭和消防署の予防課予防係長の片倉敬彦様や当院の救急副部長の稲田医師による講演も行われました。

当院は、これからも万一の災害に備えて定期的に訓練を重ね、他機関や地域との連携を図りながら、地域中核災害医療センターにふさわしい迅速で的確な救護・医療活動ができるよう努力していきます。

第2回目となる「八事脳卒中市民公開講座」が開催されました。

**医師や看護師、
リハビリスタッフなど
脳卒中の患者さんを
多くの人が支えています。**

11月28日、当院の研修ホールで第2回「八事脳卒中市民公開講座」が開催されました。1月に開催された第1回の講座は脳卒中の症状と治療に関する内容が中心でした。しかし脳卒中の患者さんにとって、急性期の治療だけでなく、回復期・維持期の病院や在宅での支援も重要です。そこで今回は「脳卒中のチーム医療とは？」と題し、脳卒中の発症から社会復帰までの間に、患者さんが多くのスタッフに支えられているということとをテーマとしました。今回も前回と同様、会場は多くの受講者で満員になる盛況ぶりでした。

最初に神経内科の中井紀嘉医師が登場し、医師の立場から脳卒中（脳梗塞・脳出血）の症状の説明と、迅速な対応の大切さを訴えました。次に脳神経外科病棟の池田亮看護師が看護師の仕事と役割について説明し、その実例として、同病棟の宇佐美康子看護師が嚥下（えんげい・食物などを飲み下す）訓練について詳しく解説しました。その後でリハビリテーション課課長の細江浩典が理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の仕事を紹介し、続いて医療社会事業課係長の坂本理恵が医療ソーシャルワーカーの活



動を紹介すると同時に、地域完結型医療への理解を求めました。

最後に、脳神経外科部長の関行雄医師の司会による質疑応答コーナーが設けられ、会場からのさまざまな質問に対し、参加者全員で丁寧な答えました。今回登場した医師・看護師・リハビリスタッフ・医療ソーシャルワーカーの他にも、薬剤師や地域の医療機関、介護関係事業所、そして何よりご家族など、多くの人と一丸となって、私たちは脳卒中の患者さんを支えています。

お知らせ

インドネシア保健医療支援事業に 大見看護師が派遣されました

現在、日本赤十字社ではインドネシア赤十字社との二国間事業として、インドネシアのボゴール病院の「外傷センター」「NICU(新生児集中治療室)」「ICU(集中治療室)」に必要な医療資機材の支援活動を行っています。その一環として、平成21年11月12日からの3カ月間、当院の整形外科病棟の大見和敏看護師がボゴール病院に派遣され、地域住民への保健医療サービスの拡充や同院の医療スタッフへの教育指導を行います。海外での医療貢献がしたくて当院に来た大見看護師にとって、これが初めての海外派遣。出発式では「これまで外科病棟で培った経験が、救急ユニットの指導に活かせると思います。また現地では、日本にはないさまざまな疾患を勉強してきます」と力強く決意を語りました。石川院長は「今回、大見さんが抜けた分をカバーする職員も含め、全員でインドネシアの医療支援に取り組んでいます。3カ月間、健康に気をつけて頑張ってください」とエールを送りました。



大見和敏看護師を派遣

第3回病院見学ツアーが開催されました



地域の皆さんに当院のことをより理解していただくために「病院見学ツアー」を開催しています。これは院長の石川清と看護部長の片岡笑美子がガイドとなり、院内の施設をご案内するというイベント。11月27日に

開催された第3回の病院見学ツアーでは約10名の方が参加され、全員が白衣に着替え、興味津々の様子で救急外来や手術室、ICU、ヘリポートなど、普段は入ることができない施設を見学しました。ツアー後は、ケーキとお茶を囲んだ懇親会も開かれました。私たちは今後もこうした活動を通して、地域に愛される病院をめざします。

次回の病院見学ツアーは平成22年3月頃に開催(予定)

※詳しくは病院ホームページでご確認ください。

広報誌の名前を募集します!

平成9年10月から13年間、ご愛読いただいた広報誌『八事日赤ニュース』は、平成22年4月からリニューアル創刊いたします。従来の「病院からのお知らせ」に加え、「医療・健康に関する情報誌」として、これまで以上に「より安心な地域社会、より良い医療、より健康的な生活」に役立つ情報提供をしていきます。

それに先立ち、皆さんから名古屋第二赤十字病院の広報誌の名前を募集します。「広報誌の名前」と「その名前を選んだ理由」を書いて企画課(kikaku@nagoya2.jrc.or.jp)までメールをお送りいただくか、正面玄関右の総合案内に設置した応募用紙でご投函ください。

たくさんのご応募をお待ちしています!

募集期間 平成22年2月28日(日)まで

ホームページのアドレスは <http://www.nagoya2.jrc.or.jp/>です。

地域医療連携センターにて、がんについてのご相談にお応えしております。また、病院ホームページでもがん治療に関するさまざまな情報を発信していますので、ご利用ください。

「八事日赤ニュース」46号をお届けします。今回は、「院長のあいさつ〜平成22年に向けて〜」を中心にお知らせいたしました。本誌へのご意見、ご要望がありましたらどうぞ下記のところへお寄せください。お待ちしております。
名古屋第二赤十字病院 企画課 ☎052-832-1121 内線51141
〒466-8650 名古屋市昭和区妙見町2番地の9
メールアドレス kikaku@nagoya2.jrc.or.jp

編集後記

毎年恒例のクリスマスコンサート 今年も笑顔で盛り上がりました。



12月17日、恒例のクリスマスコンサートが開催されました。第一部と第二部では、この日のために練習を重ねた当院の医師5名がピアノ、チェロ、ヴァイオリンの腕前を披露しました。第三部はメインイベント、中井ドラゴンズ選手によるトークショーです。現役を引退した立



浪和義さん、井上一樹さんをはじめ、井端弘和選手、荒木雅博選手、蔵本英智選手、手が入場すると、会場は割れんばかりの拍手。「監督と一番仲が良いのは?」といった子どもたちの質問タイムでは、選手たちも東を贈り、温かな雰囲気になりました。



このトークに笑いがあふれ楽しいひとときとなりました。終了後は選手たちが小児病棟を訪問し、入院中の子どもたちにお菓子をプレゼント。

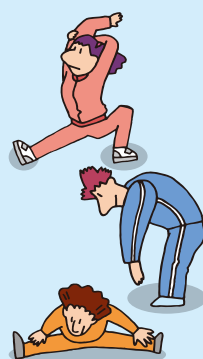
ハートフルコンサートでは 名フル五重奏による 優雅なウィーン音楽を楽しみました。



11月24日、当院の研修ホールで恒例の「ハートフルコンサート」が開催されました。毎回、趣向を凝らした演奏が行われるこのコンサート、今回のテーマは「春の声」やシューベルトの「軍隊の進行曲」など、ウィーンで活躍した音楽家の有名な曲が演奏され、芸術の秋にふさわしい優雅な時間となりました。

他にも日本の有名な曲をウィーン音楽風にアレンジしたメドレーの演奏や、一つの曲がアレンジによって印象が変わる実験、さらに曲と曲の間には彼らのCDが当たるクイズなど、聴く人を楽しませる工夫がいっぱいのステージで、会場は常に笑顔であふれていました。

糖尿病のつどいが 開催されました。



全国糖尿病予防週間に合わせ、11月7日に「第26回糖尿病のつどい」が開催されました。参加者は食事療法と運動療法に関する講演を受けた後で4つの分科会に分かれ、ヨガやエアロビクス、ゲームなどの運動療法を楽しみながらまなび、同時に、「1型糖尿病の会」「ひまわりの会」も開催されました。こうして糖尿病を管理することがいくつもの急性期疾患の予防にもなることを、私たちは今後もこの会を続けていきます。

外来診療表

お問い合わせは TEL.052-832-1121

平成21年12月1日現在

診療科目		室	月	火	水	木	金
産婦人科	午前	1	山室	倉内	加藤	山室	倉内
	2	加藤	茶谷	林	茶谷	加藤	林
	3	金澤	今井	西野	今井	林	加藤
泌尿器科	午前	1	山田	小林	小林	山田	錦見
	2	吉田	錦見	吉田	石田	石田	錦見
	3				横井	石田	錦見
一般消化器外科	午前	1	坂本	長谷川	坂本	小松	長谷川
		2	神谷	廣瀬	日高	奥野	西前
		3	久留宮	久留宮	法水	高山	法水
		5	交替制	交替制	交替制	交替制	交替制
皮膚科	午前	1	谷口	谷口	谷口	吉田	谷口
		3	山本	山本	吉田	山本	山本
		6	吉田				吉田
	午後	1	谷口		吉田	山本	
整形外科	午前	1	岸田	笠井	樋口	大羽 森田	濱田
		2	深谷 関	佐藤 晋	安藤 晋	安藤 晋	佐藤 晋
		3	北村 関	片山	北村 関	濱田	片山
		5	樋口	深谷 関	森田 大羽	笠井	岸田
	午後			交替制 健			
リハビリテーション科	午前		交替制	交替制	交替制	交替制	交替制
形成外科	午前	3	並木		並木		並木
移植外科・内分泌外科	午前	1	打田	富永 内	富永 内	打田	松岡 内
		2	渡井		打田	後藤(芳)	後藤(憲)
		3	長坂	打田 特		後藤(憲)	打田 特
		5	鈴木			平光(第1・3・5週)	渡井(第2・4週)
	午後	1	打田	富永 内	富永 内	打田	松岡 内
2	渡井	松岡 内		後藤(憲)	後藤(憲)		
3	長坂 八	長坂 八		長坂 八			
5	後藤(憲) 特						
脳神経外科	午前	6	高須	関	波多野(第2・4週)	関	波多野
		7	椎名	新帯	青木	小島	交替制
神経内科	午前	1	眞野(第1・3・5週)	横井	大山	荒木	山田
		2	荒木(第2・4週)		満間	中井	大山
		3	中井	眞野	長谷川	安井	満間
循環器内科	午前	7	七里	吉田(幸)	平山	七里	平山
		8	滝川	井上	吉田(路)	立松	金村
		10	井上	井上	三輪田	三好	山本
	午後	10		ICD外来			
血管外科・心臓外科	午前	12	井尾 晋	田嶋	酒井	井尾 晋	高味
呼吸器内科	午前	3	鈴木	若山	鈴木	小笠原	小笠原
		5	山羽/土方	若山	小林	加藤	若山・木村
呼吸器外科	午前	2		吉岡	向山 再	向山 再	吉岡
緩和ケア外来	午後	2			若山		

診療科目		室	月	火	水	木	金
耳鼻咽喉科	午前	1	中野				
		3		交替制	小山	伊藤	山口
		5	伊藤		伊藤		
歯科口腔外科	午前		林	林	林	林	林
			渡邊	渡邊	渡邊	渡邊	渡邊
			西川	西川	西川	西川	西川
			大森	大森	大森	大森	大森
			川尻	川尻	川尻	川尻	川尻
小児科	午前	1	稲垣 900	安藤(直) 替	山田 1030	側島	今橋 心 (第1・3週)
		2	石井	岩佐	田中	山田	横山
		6	神田	野田 900	石井	神田 7	廣岡
		7	畔柳 900	後藤	後藤 900-1030	村松 900	元野 900
		7	元野 1030				畔柳 1030
	午後	1	今橋 心	石井 血			永井(幸) 替 (第1・3週)
		2	永井(幸) 替				野村 心 (第1・3・5週)
		6	シナジス外来 1500-1600		神田 7	後藤 内分 (第1・3週)	田中 未
		7	後藤 晋		野田 7	横山 替	岸 村松 (第1・2・3週)
		8	山田 晋	廣岡 1400-1600	交替 乳 (第2・4週)	交替 替 (第1・3週)	岩佐 替
小児外科	午前	8	城田		城田	城田(第2週)	
血液・腫瘍	午前	3	鈴木	笠井	内田	小椋	尾山
	午前 初診 新患	5	岡本	尾山	笠井	内田	鈴木
消化器	午前	10	野村	梅村	林(克)	堀	林(克)
	12	山田	折戸	山田	坂	折戸	岩崎
糖尿病・内分泌	午前	7	稲垣	垣屋	加藤	稲垣	垣屋
	8	前田	中島	高木	東	高木	東
腎臓	午前	16	両角	堀家	武田	両角	武田
	15	交替制	交替制	大塚	交替制	交替制	交替制
総合	午前	1	横江	野口	横江	丹羽	野口
	2	交替制	交替制	交替制	交替制	交替制	交替制
眼科	午前	1	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木
	2	永田	清水	永田	清水	永田	清水
放射線科	午前		綾川	三村	綾川		三村
			三村	綾川	芝本(隔週)	三村	綾川

- 関 関節
- 特 特診
- 精 精神
- 接 予防接種1・3週
- 脊 脊椎
- 管 血管外科
- 腎 腎臓
- 健 小児股関節健診
- 再 再診のみ
- 血 血液
- 内分 内分泌1・3週
- 内 内分泌外科
- 神 神経
- ア アレルギー
- 循 循環器
- ハ ハイリスク外来
- 心 心理
- 乳 乳児健診2・4週
- 未 未熟児1・2・3週

※各診察日担当医師につきましては、学会等により代診、休診とさせていただきますのでご了承ください。
 ※診療表は毎月変更がございますので、ご確認ください。最新の診療表及び休診情報は各科外来の掲示、またはホームページ【<http://www.nagoya2.jrc.or.jp/>】に掲載しております。

外来のご案内



- 診療受付時間** 初診:午前8時～午前11時まで
再診(予約外):午前8時～午前11時30分まで
- 診療開始時間** 午前8時45分
- 休診日** 土曜・日曜・祝日 年末年始(12月29日～1月3日)
日本赤十字社創立記念日(5月1日)

※救急については、休診日や診療時間帯にかかわらず救命救急センター(第2病棟1階)にて診療しています。

ご家庭で排出される医療廃棄物の処理方法と廃棄場所についてご案内いたします。適切で安全な処理のために、下記の方法にて廃棄していただきますようお願い申し上げます。

種類	処理方法	廃棄場所
針・注射器	使用後は、ふた付きで密閉できる丈夫な容器に入れてください。外来時に病院へ持参してください。	投薬窓口横に廃棄箱があります。
輸液ライン	針部とライン部を別々に入れてください。	名古屋市の不燃指定袋に入れて、不燃ごみとして出してください。
カテーテル	膀胱留置カテーテルは液もれしないようにしてください。外来時に病院へ持参してください。	投薬窓口横に廃棄箱があります。
	自己導尿・気管吸引チューブなどは液もれしないようにしてください。	名古屋市の可燃指定袋に入れて、可燃ごみとして出してください。
プラスチックバッグ類 (点滴バッグ・CAPDバッグ・ストマー袋)	バッグ内の液を捨てて空にしてください。	名古屋市の可燃指定袋に入れて、可燃ごみとして出してください。
その他	ガーゼ・脱脂綿などは密閉してください。	

※その他、分別廃棄についてご不明な点は、当院施設・購入管理課までお問い合わせください。
 ※名古屋市以外の方は、お住まいの市町村の廃棄物担当課までお問い合わせください。